

牛久：学校周辺に見る自然

第18号 ひたち野うしく中

2020年5月4日発行

< 新設校の校庭の雑草・春 ～その5 >

こんにちは。新設のひたち野うしく中校庭の植物、その5、最終です。グループ分けの問題、分かりましたか？ これまで出てきた植物はすべて被子植物の双子葉類で、下の表のようにその1、2の植物は合弁花類に、そしてその3、4の植物は離弁花類に分類されています。花をよく見て、確認しましょう。そして、「①それぞれの植物が生育する環境」についても調べてみましょう。逆に、雑草のように自然に生えてきたものなら、それらの種類から校庭の環境を知ることができます。



被子植物には双子葉類の他に単子葉類がありますが、花をつけていたのはスズメノカタビラ1種だけでした。ススキやイネと同じイネ科のグループですが、これから咲いてくるアヤメやユリなども単子葉類です。発芽して出てくる子葉が1枚なのが単子葉類、2枚なら双子葉類。いろいろな種子をまいて調べてみましょう。

スズメノカタビラ（単子葉類イネ科）

合弁花類：キク科（セイヨウタンポポ、ノボロギク、ハルジオン、ヒメジョオン、ブタナ、ヨモギ、セイトカアワダチソウ、ノゲシ、オニノゲシ、ハハコグサ）、シソ科（ヒメオドリコソウ、ホトケノザ）、オオバコ科（ムシクサ、オオイヌノフグリ、タチイヌノフグリ、マツバウンラン）、モクセイ科（キンモクセイ）、ムラサキ科（キュウリグサ）、サギゴケ科（トキワハゼ）、ツツジ科（ツツジ）

離弁花類：アブラナ科（ナズナ、タネツケバナ、ミチタネツケバナ、スカシタゴボウ）、カエデ科（イロハモミジ）、ナデシコ科（コハコベ、オランダミミナグサ）、マメ科（カラスノエンドウ、シロツメクサ）、ケシ科（ナガミヒナゲシ）、カタバミ科（カタバミ）、バラ科（ソメイヨシノ）、アカバナ科（コマツヨイグサ、メマツヨイグサ）、アジサイ科（アジサイ）、タデ科（ハルタデ、ギンギシ）、ブドウ科（ヤブガラシ）、フウロソウ科（アメリカフウロ）、アサ科（カナムグラ）



最後に、種子をつくらず胞子で増える植物もあります。今回は、シダ植物のスギナだけが見られました。春早く出る「つくし」は、スギナの胞子をつくり、飛ばす体なのです。

【理科支援員：宮内】

ひたち野うしく中の校庭に生い茂るスギナ（左）。

ツクシとスギナ（中：2018.4.10 ひたち野うしく小）

ツクシとスギナは、地下でつながっている同じ植物（右：2010.4.17 稲敷市）。